



平成 26 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 豊 商 事 株 式 会 社
 代表者の役職名 代表取締役社長 安 成 政 文
 (J A S D A Q ・ コード番号 8 7 4 7)
 問い合わせ先 常務取締役管理本部長 多々良 孝之
 電 話 番 号 (0 3) 3 6 6 7 - 5 2 1 1

平成 26 年 3 月期連結及び個別業績見通し並びに繰延税金資産の取崩に関するお知らせ

平成 26 年 3 月期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の連結及び個別業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので速報値としてお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みですので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 3 月期の業績速報値及び業績の差異

(1) 連結

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前 期 実 績 (平成 25 年 3 月期) (A)	4,435	173	111	△147
当 期 実 績 見 込 み (平成 26 年 3 月期) (B)	4,237	△95	△39	△255
増 減 額 (B - A)	△197	△269	△151	△107
増 減 率 (%)	△4.5	—	—	—

(2) 個別

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前 期 実 績 (平成 25 年 3 月期) (A)	4,234	39	155	△86
当 期 実 績 見 込 み (平成 26 年 3 月期) (B)	4,102	△153	△39	△256
増 減 額 (B - A)	△132	△193	△194	△169
増 減 率 (%)	△3.1	—	—	—

2. 差異が生じた理由

(1) 連結業績見込み

当連結会計年度（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）においては、日本銀行の黒田新体制下の「量的・質的金融緩和」、別名「異次元金融緩和」が導入されたことから、景気動向に対し明るい兆しが見え始め、大手企業を中心に株価が上昇するなど、幸先の良いスタートとなりました。一方、世界経済は、米国の復活による穏やかな景気回復の兆しがみられるものの、中国経済減速などが懸念され、先行き不透明な状況が続いておりますが、商品先物取引の売買高は 1,308 千枚（前年同期比 36.5%減）及び金融商品取引等の総売買高は 2,351 千枚（前年同期比 74.1%増）となりました。取引所株価指数証拠金取引による手数料が伸びたものの、商品先物取引の貴金属市場における手数料が減少したため、受取手数料は 3,980 百万円（前年同期比 4.5%減）、売買損益は 211 百万円の利益（前年同期は 219 百万円の利益）となり、営業収益は 4,237 百万円（前年同期比 4.5%減）、営業損失は 95 百万円（前年同期は 173 百万円の営業利益）、経常損失は 39 百万円（前年同期は 111 百万円の経常利益）となり、さらに繰延税金資産の取り崩しにより法人税等調整額を 191 百万円計上した結果、当期純損失は 255 百万円（前年同期は 147 百万円の当期純損失）となる見込みであります。

(2) 個別業績見込み

個別業績の対比につきましては、連結業績見込みと概ね同様の営業収益の減少に伴い、営業損失は 153 百万円（前年同期は 39 百万円の営業利益）、経常損失は 39 百万円（前年同期は 155 百万円の経常利益）となり、さらに繰延税金資産の取り崩しにより法人税等調整額を 196 百万円計上した結果、当期純損失は△256 百万円（前年同期は 86 百万円の当期純損失）となる見込みであります。

以 上